

## ウトロ海域における保全と利用の取り組みの進捗状況について

### 知床ウトロ海域環境保全協議会の取り組みと主な活動

#### うみどり WEEK

例年、7月中旬に開催していたが新型コロナウイルス過のため、大きく縮小した。  
協議会事務局で協議した結果

- ・地元のウトロの子供会「愛護少年団」を中心に、サンセットクルーズ。
- ・知床世界遺産センターでの海鳥 WEEK 特別展示

この、2つの活動のみの活動となった。

#### 1. サンセットクルーズ

7月26日(日)16時半頃から18時頃まで、地元の愛護少年団とその父兄や関係者など地元からの参加者限定で33名が乗船した。

今回は、小型観光船協議会からゴジラ岩観光のカムイワッカ55を利用させてもらった。観光船からはウトロ海上や岸壁にいるケイマフリやその他の海鳥やアマツバメを観察しながら、子供達へ解説を行った。双眼鏡は海域協議会のメンバーのゴジラ岩観光にて用意した



## 2. 海鳥 WEEK 特別展

- ・知床世界遺産センター・レクチャー室において7月23日～7月31日まで写真と手作りジオラマを中心とした展示を行った。



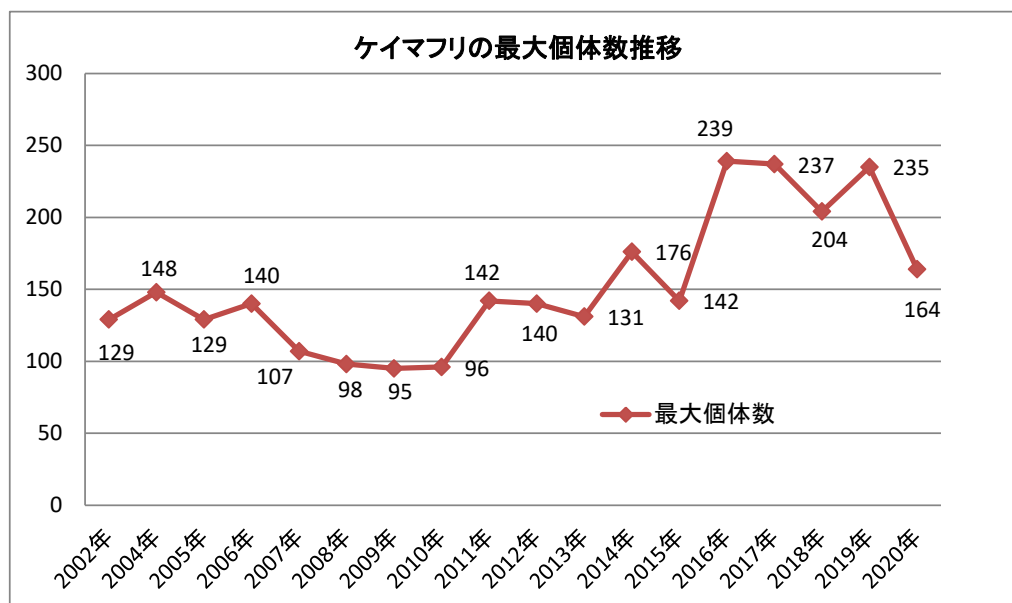
\*我孫子ジャパン・バード・フェスティバルはウェブ開催。大阪自然史フェスティバルは中止となりました。ねむろバードランドフェスティバルの開催は現在のところ未定である。

### ケイマフリの生息状況について

小型・大型観光船は6月6日まで運航していなく、それ以降もそれぞれ1便程度の運航で、本格的に運航したのは7月上旬からであった。その状況の中でケイマフリの生息数がどう変化するか注目していた。

結果としては、最高羽数164羽、昨年の235羽と比較して71羽減少した。2016年以降は200羽以上を記録していたが200羽を切るのは2015年以来である。

7月中旬までは100羽に満たない数であった。観光船が航行していない状況でもケイマフリの個体数が少なかったため、観光船の航行がケイマフリの生息数に影響を与えている可能性は低いと考えられる。



**オオセグロカモメの糞被害と駆除**

今年はや卵 153 個を駆除したようである。これまでは、事前に斜里町役場から連絡があり、現場に立ち会っていたが、今年はや役場支所が作業を行ったため連絡がなかった。そのため、詳細な状況は不明である。また、近隣のオロンコ岩では昨年 211 巣営巣していたが今年はや 14 巣と大きく減少した。繁殖期に大型観光船おーろらが運航しておらず、オロンコ岩の真下の駐車場の利用がほとんどなく、警戒心の強いオジロワシが頻繁に飛来し営巣していたオオセグロカモメをかく乱していたことが原因だと考えられる。

**シーカヤックの利用について**

シーカヤックによる海鳥の繁殖地への接近が心配される。観光船などの動力船で接近できなかった場所への侵入も確認されている。今後、海鳥の繁殖への影響が心配される海域や時期を明確にして利用制限海域を提示する必要があると考える。

**国立・国定公園への誘客の推進事業**

国立・国定公園への誘客の推進と収束までの間の地域の雇用の維持確保事業費等補助金

\* 予定されている活動内容

1. ハンドブックの改訂と増刷 (4 ページ追加・12,000 部増刷)
2. ウトロ海域のゴミ回収作業 (4 回 9 月中旬までに実施し終了)
3. 大型観光船による海鳥観察トーク (1 回 10 月 10 日 (日) 実施予定)
4. 小型観光船による海鳥観察トーク 1 回 (未定)